

◎特集1

メイキング・オブ「岡谷太鼓まつり」 祭を支える心意気に迫る

若い打ち手の成長に、ほっと胸をなで下ろす指導者、
わが子や孫の晴れ舞台に、目を細める家族、
ステージと観衆の熱気の融合に思わず涙するスタッフ…。
スポットライトを浴びることはなくても、
熱い思いを共有して、まつりを支える人々がいます。

「岡谷太鼓まつり」は、今年で39回。

太鼓を、まつりを、この地に根づかせた

先人への敬意を忘れることなく、

その伝統は、たくさんの人の手と情熱によって

新しい息吹を吸収し、

夏を盛り上げる岡谷の市民祭として、

力強く葉を繁らせてきました。

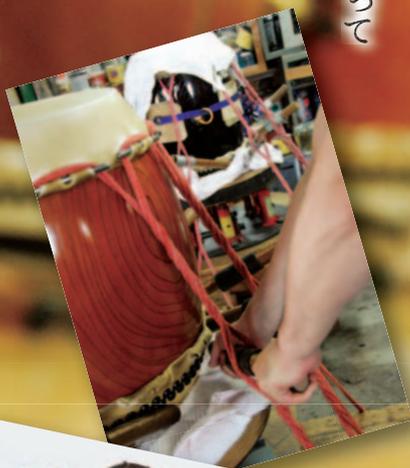
この祭に美辞麗句は不要です。

13日、14日は、ぜひ会場に足を運び、

ともに心を躍らせる感動体験を！

…日本の屋根から世界に「どどん」と威勢よく、

岡谷人の心意気を響かせましょう。



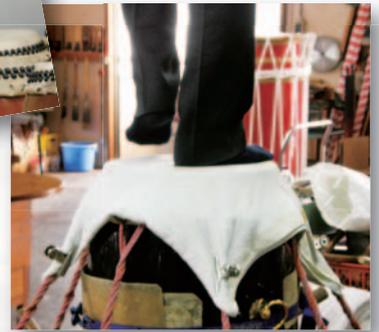
が、おどる。

響きが、リズムが、たける。

戦後、御諏訪太鼓（諏訪大社の神楽）を復元した小口大八さんによって、大小太鼓を組み合わせオーケストラのような編成でリズムやメロディを生み出す複式複打法と呼ばれるスタイルが確立されると、各地で太鼓人気に火

がつき、東京オリピックに前後して全国的に広まるなか、岡谷でも太鼓連立ち上げの動きが活発化していきました。
昭和44年7月、中央通り商業連合会（小口賢一会長）が天王森で有志の太鼓祭を企画したところから、商工会議所（林清市初代会頭）が岡谷太鼓の組織化に乗り出すと、翌年、大阪万博に出演した御諏訪太鼓を視察した岡谷市も祭の運営に本格的に参画、働く若者を中心に6連の太鼓連が旗揚げし、同年10月、六道の辻にやぐらを組み、林浩正市長（当時）の砂切太鼓を合図に「第1回岡谷太鼓まつり」が開催されました。またたく間に太鼓連は10チームを超え、4回目からは明確に市民祭と銘打って、太鼓のまちとしての岡谷の歩

岡谷太鼓まつりの基礎知識&編年史



第39回 市民祭 岡谷太鼓まつり スケジュール

12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時
8/13日(水)									
ふれあい広場									
ふれあい広場ステージ ※雨天:カノラ小ホール									
MINAKOIわっさか フリースタイル									
踊りパレード会場 ※雨天:市営総合体育館									
メインステージ									
本会場 ※雨天:カノラ大ホール									
8/14日(木)									
ふれあい広場									
ふれあい広場ステージ ※雨天:カノラ小ホール									
メインステージ									
本会場 ※雨天:カノラ大ホール									
子どもパレード・みこし・長持ち									
駅前~童画館通り~中央通り~本会場									
MINAKOIわっさか 流し踊り・フリースタイル									
踊りパレード会場 ※雨天:中止									

が続き、東京オリピックに前後して全国的に広まるなか、岡谷でも太鼓連立ち上げの動きが活発化していきました。
昭和44年7月、中央通り商業連合会（小口賢一会長）が天王森で有志の太鼓祭を企画したところから、商工会議所（林清市初代会頭）が岡谷太鼓の組織化に乗り出すと、翌年、大阪万博に出演した御諏訪太鼓を視察した岡谷市も祭の運営に本格的に参画、働く若者を中心に6連の太鼓連が旗揚げし、同年10月、六道の辻にやぐらを組み、林浩正市長（当時）の砂切太鼓を合図に「第1回岡谷太鼓まつり」が開催されました。またたく間に太鼓連は10チームを超え、4回目からは明確に市民祭と銘打って、太鼓のまちとしての岡谷の歩

みが始まりました。

現在岡谷太鼓保存会は、市、商工会議所、市観光協会ほか市内の多くの事業所などに支えられ、20以上の太鼓連など大勢の打ち手によって構成されています。そして13日、14日の両日、祭の野外特設ステージでは300人、ステージまわりも合わせて500人の「揃い打ち」が大地を揺るがし、各連勇壮な「響演」を繰り広げます。

MINAKOIわっさか、みこし、長持ち、木遣りが元気な花を添え、参加の輪、ふれあいの輪を広げて、岡谷太鼓まつりは、今や太鼓パフォーマンスにとどまらない躍動する祭として進化を続けています。



心ひとつに祭にかける

舞台を支える

「太鼓で岡谷を活気づかせたい」

企画委員長 横内毅さん



打ち手時代には、アメリカ建国200年祭やフランスのニースカーニバルにも出演させてもらって…思い出は尽きないけれど、

今は、若い人が太鼓に夢中になってくれるのが一番うれしいですね。念願だった岡谷太鼓道場「鼓鳴館」ができて練習環境が充実し、太鼓連も増えてきました。

今年の太鼓まつりは、来年の40回を盛大に祝うための土台作り。名実ともに日本一の太鼓として、その名に恥じない祭の歴史を刻んでいくために、できるだけ盛り上げて来年につなげないとね。さらにその先の50回をめざしてがんばりますよ。

「みんなで作り上げることに意味がある」

メインステージ部会 今井一喜さん

それぞれに仕事をしながらですが、なんとか時間をみつけて集まって、いい祭になるように精一杯準備をしています。そうしたアマチュア

景気よく彩る

「オフィシャルわっさか」を

いつかスタンダードに

MINAKOIわっさか部会 笠原新太郎さん



MINAKOIわっさかは、2000年の記念祭から始まった歴史の浅い部門なので、試行錯誤の段階ですが、初参加あり、常連参加あり、とにかく年々にぎわいを増し「楽しい」といつてくれる人がいるので励みになります。

伝統の流し踊りも大切に、フリースタイルも岡谷らしさを育んで、多くの人が楽しめるものになりたい、と今考えているのが…「オフィシャルわっさか（仮称）」。

実は1月から部会をスタートさせ、太鼓と融合した岡谷らしい踊り、誰もが楽しめる曲と振り付けを研究し始めています。昨年フリースタイルの



MINAKOIわっさか
フリースタイル参加チームの練習風景

技で心を打つ

「新曲のお披露目を成功させたい」

太鼓保存会技術部長 宮坂悟さん



豪雨災害を乗り越えて「よし、やろう！」と盛り上がった昨年。今年はそこからどう仕切り直して、いい祭にしていくかですね。

20ほどある太鼓連から中心メンバーを集めて研さんを積む「技術部会」は、太鼓まつりの肝心要。メンバーの入れ替わりがあったりすると、足並みをそろえるまでが大変ですが、各チームのレベルアップや揃い打ち全体練習へのフィードバックのために、指導にも熱がこもります。今年の新曲の「金剛力」を発表します。初演奏のため、まずは1000人規模くらいでまとめる予定ですが、とにかくこれが今年の挑戦。若い人は覚えも早いし、やってくれると信じています。

「めざすのは硬派でエネルギーシユな太鼓」

和太鼓若衆 打ち頭 高野充さん



これだ！自分も打ち手になりたい！と、18歳から本気で始めて7年になります。チームは11人全員が男性で20代中心。侍魂！とでもいったらいいのかな、スタイルだけ



のがんばりが祭を支えていると思うし、だからこそステージと観客がひとつになつて、楽しめるのかなと。会場全体が

熱気をはらんで、大きな輪になつて盛り上がりつついく感じ…その瞬間がたまらないし、裏方みようと利に尽きますね。JCでの経験と仲間のサポートを生かして、今年もいい「輪」を作つていきたいと思っています。

「参加と発表の場として

市民祭の本領発揮

ふれあい広場部会 今井康友さん



祭は参加してこそ楽しいもの。ステージと観客の垣根を取り払って、見る人が出る人に、出る人が見る人にと入れ替わり

立ち替わり…これが「ふれあい広場」ならではの魅力です。太鼓に限らず教室や講座の発表ができるほか、ステージとステージの合間には、御諏訪太鼓の協力で、今年も太鼓の体験教室を開催します。幅広い年代の市民参加でなごやかに、元氣いっぱい笑顔が集う…ふれあいムードの楽しい広場で会いましょう。

コンテストで優勝したチームは、太鼓の曲「まつり」でダンスをアレンジしていました。MINA KOIわっさかの方向性が見えた気がしましたね。「オフィシャルわっさか」をスタンダードとして、いつかみんなで踊りたい、それを目標に今年もがんばります。

「景気よく連携よく、

みこしで祭を盛り上げる」

みこし連部会 山田雅彦さん



大・中・小のみこしは、毎年長地、川岸、湊の3区の持ち回りで担当を決めています。長年準備や点検から一緒にやっ

ているので、息のあった威勢のよさを楽しんでもらえると思います。3機のみこしの間隔はもちろん、ふれあい広場通過時間や長持ち連との連携など、しっかりと目配りしていきますが、みなさんもげがないように楽しんでください。メインステージでの太鼓とみこしの共演もお楽しみに。太鼓に合わせ

てみこしがうねるハイルイト、盛り上げていきますよ。みこしを担いでみたいと思う人、どしどし声をかけてください。来年に向け元氣な仲間も募集中です。



みこしの点検作業も慣れたもの

ではなくて、太鼓の精神性を大事にした男氣のある演奏を心がけています。祭では、若さのみなぐる元氣な鼓曲をやります、一緒に楽しんでください。通年週3回の練習を6月から4回に増やして仕上げモード。仕事の都合などあるので全員が集まれるとは限らないけれど、やりくりしてがんばっています。祭が好きだし、当日はかつこよく目立ちたい。

「みんなに会えるのが楽しいから…」

祥風会子供連のみなさん

「見学にきておもしろそうだと思ったから」「家族や親せきがやっているから」…などをきっかけに太鼓を始めた約30人の小中学生が市内全域から集まります。

キャリアはそれぞれですが、みんななかよしで一生けん命。楽しい雰囲気のおかげ、しっかりと構える、肩を入れてたたくなど、岡谷太鼓の特徴的なパフォーマンスを身体に覚えさせながら、本番さながらの練習ぶりです。休憩時間のおやつタイムには「ホラ貝と二丁がむずかしいけれど、上手になりたい!」「テレビや写真に写ったらうれしい!」「大人になっても太鼓を続けたい!」など、元氣よく話してくれました。

